

平成29年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 105	提案機関名 よこすか葉山農業協同組合
要望問題名 農家レベルでの野菜残渣（ダイコン）の効率的なたい肥化方法の検討	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 近年、価格低迷からダイコンのほ場における残渣は増加傾向で、その処理が地域的な問題になりつつある。大根は含水率が高いためたい肥化しにくく、キャベツなどと異なり畑にすき込むことも困難である。少量であれば、ほ場周辺にたい積し分解処理することや畑にすき込むことも可能であるが、出荷されず廃棄処分によるものも含まれるため量が多い。過去に「未利用資源たい肥化マニュアル」において野菜くず（ダイコン）のたい肥化技術について解説されているが、たい肥化装置を利用したものが主体であり、現場の状況を考慮すれば活用されにくい。個別の農家レベルでの効率的なたい肥化方法が求められている。 ダイコン作付面積 三浦市 706ha、横須賀市 17ha（平成25年農林水産統計野菜生産出荷統計）	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産環境部土壌環境研究課 三浦半島地区事務所研究課
対応区分	①実施 ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 有機性廃棄物の肥料化技術の開発 他			
対応の内容等 野菜残さの簡易堆肥化方法については、これまでに各種の堆肥化方法を検討していますので、次の資料を参考にしてください。 ・未利用資源堆肥化マニュアル（神奈川県） 平成22年3月 p39～47 ・県農業総合研究所試験研究成績書（農業環境）平成11年度 p165～166（簡易通気による堆肥化促進効果） 平成12年度 p215～222 237～240（牛ふんとの混合堆肥化） 平成16年度 p159～160（被覆資材の効果検討） これら方法の現地での適用の可否は、破碎装置類の保有状況や堆肥舎の規模や処理に利用可能な面積等に左右されますので相談いただければ、過去の試験結果等をもとに情報提供します。 なお、現地圃場では収穫残渣が発生した圃場にすき込む場合が多いと考えられるため、すき込み前の残渣の処理方法や発酵促進剤の効果、後作への影響等に関する試験研究課題の設定を検討します。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			